



迎春

民有林と国有林の連携強化により飛躍



明けましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって素晴らしい年となることを心からお祈り申し上げます。

去年は、長引くデフレ不況も、安倍内閣が進める経済対策いわゆるアベノミクス効果で、景気回復傾向にあり連結決算は各企業ともプラスに転じています。一方、林業・木材産業界の経営については、依然として厳しい環境に置かれていますが、7月から木材利用ポイント事業の申請がスタートしたこともあり、新規住宅着工数も増加しており、多少明るい兆しが見えてきました。

さて、国有林野事業は、昭和22年の林政統一から国有林野事業特別会計で運営していましたが、平成25年度から一般会計となり、公益機能の発揮を一層推進するとともに、我が国全体の森林・林業の再生のための管理経営へと移行しました。国有林野事業として、国民の財産である豊かな国有林を次世代に適切に継承していく責務は重大であり、森林・林業の再生に向けたさまざまな取り組みを推進していくことが求められています。

こうした中、森林・林業再生、木材自給率50%の実現に向けて、林業経営の基盤づくりや、造林・伐出などの低コスト化と施業の集約化、市場ニーズに応じた木材の安定供給と利用拡大に必要な体制を計画的に構築する必要があります。加えて国有林の組織・技術力・フィールドを活かして民有林の指導やサポートを行う人材育成も重要です。これまで培ってきた技術・経験を活かし、積極的に業務に取り組み、地域の信頼を得られるよう努力することが大切です。

本年は、一般会計移行2年目であり、国有林野事業の

本気度が試される年でもあります。近畿中国森林管理局では、地域の森林・林業の再生に向けた重点取組として、民有林と国有林との連携を重視した森林共同施業団地の設定、フォレスターや林業専用道技術者などの人材育成の支援、低コスト造林等の推進、路網と高性能林業機械等を組み合わせた低コストで高効率な間伐の推進、木質バイオマス燃料等の木材資源の利用拡大の推進、二ホンシカ、松くい虫、ナラ枯れなどの被害では、地域と一体となった被害防止対策の実施、治山対策では地域の暮らしを守る山腹崩壊地の復旧・整備や山地災害の対応などに取り組むこととしています。

これらの事業を推進するに当たり、国有林野事業だけでなく、広く森林・林業一般行政や国民に開かれた行政組織として、民有林や関係機関、地域住民の皆様とこれまで以上に連携を図りながら、森林・林業の抱える課題の解決に全力で取り組む所存です。

このため、こうした諸課題に率先して取り組むとともに、予定した事業を確実に実行し、国有林の組織・技術力・資源を活かして、コスト削減や路網整備、民有林との連携、人材育成への支援、治山対策や森林保全対策を推進など、各般の取り組みを積極的に進め、森林・林業の再生を推進するとともに、今後いかに民有林施業に貢献できるかが、国有林組織の評価につながってきます。そのためには地域のニーズを把握し、国有林として何ができるかを考え、地域住民、関係機関の信頼を得ることが必要であると考えています。これからも国有林野事業に求められる役割の発揮に精一杯努めていく考えですので、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、皆様方の今年1年間のご多幸とご健康を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

平成25年度「森林の調査隊！！フォトコンテスト」～入選作品～

【森林整備部 箕面森林ふれあい推進センター】

12月1日（日）に京都市東山区の清水寺「経堂（重要文化財）」において、平成25年度「森林の調査隊！！フォトコンテスト」の最終審査及び入選作品の表彰式を公開で開催しました。

このフォトコンテストは、里山や森林に暮らす動植物やボランティアによる森林づくり活動、森林環境教育活動などの写真撮影を通じて、里山や森林の現状及び森林の持つ役割を多くの人に伝えることを目的として、今回で7回目の開催となります。

今年は、森林（里山）の風景や、森林整備活動状況などその時に感じた心象や、ボランティア活動等で自然とふれあった状況等をテーマとした「森林と人との関わり」部門と、身近な森林や里山に生息する植物や昆虫及び動物などの生育場所などをテーマとした「森林の動植物（植物・昆虫・動物）」部門について3枚1組の写真を1作品として募集したところ、学校（小学校、中学校、高校）、森林林業活動グループ、企業、一般から60作品の応募があり、この中から1次審査を通過した30作品が最終審査に進みました。

最終審査では、作品の応募者による日頃の活動状況や作品の説明及び里山や森林に対する想いをスピーチするとともに、単に作品の映像の美しさにとどまらず、作品に込められたメッセージも審査の対象として、農学博士の只木良也氏、フリーアナウンサーの青山佳世氏、NPOの市民グループ「フィールドソサイエティー」事務局長の久山慶子氏、箕面公園昆虫館館長の久留飛克明氏の4氏の審査員と近畿中国森林管理局長も審査に加わり、林野庁長官賞（最優秀賞）1作品、里山賞1作品、審査員特別賞1作品、近畿中国森林管理局長賞（優秀賞）7作品の計10作品の入選作品を決定しました。

最 優 秀 賞

林野庁長官賞「森林の動植物（植物、昆虫、動物）部門」

タイトル：「豊かな自然の生き物たち」氏名：山下 泉マリー（滋賀県大津市）

私は、よく家族で森にハイキングに行きます。

その時に、私はたん生日に買ってもらったカメラをいつも持って行き、おもしろい生き物やきれいな風景を見つけると、写真を撮をたくさん撮ります。

今回応募した作品のうちの二つは、家族旅行の時に撮ったものです。

カエルの写真は富山県の合掌造りの集落周辺の池で撮りました。

そこは辺り一面カエルの鳴き声でいっぱい、その鳴き声もカメラにおさめたいと思ったので、カエルが頬をふくりました瞬間をじーっと待って、やっと撮ることができました。

オレンジのチョウの写真は、長野県の戸隠神社の近くで撮りました。

そのチョウは私が写真を撮ろうとすると、すぐ逃げてしまうので、気づかれないようにそーっと撮らないといけませんでした。

戸隠へは夏休みにキャンプに行ったのですが、とても暑かった滋賀県から来た私たちにとって、長野県はとても涼しくて、朝晩は寒いくらいでした。

このチョウは滋賀県でも何回か見たことがあったと思いますが、長野県で見ると空気がすがすがしいので、色が鮮やかに見えました。

最後に二匹のアゲハチョウの写真は、自宅の庭で撮ったものです。

チョウが交尾している姿は、テレビや図鑑でしか見たことがなかったので、あわててカメラを持ってきて撮りました。

森へ行くと、いろいろなおもしろい発見があって、とても楽しいです。

これからたくさんの生き物が住めるように、森を大切にしていきたいです。



里 山 賞

「森林と人との関わり部門」

タイトル：「ミッション！ SATOYAMA パート2（里山は心の中にあるんだよ）」

氏名：須賀 修平・中川 卓・水野 弥生（大阪府大阪市）

秋も深まりつつある日のこと、当社にもやって来ました里山旋風！
日頃から森林を愛する社長の一声は、もう立派な“お仕事？”去年に
引き続いてミッション里山のキックオフです。

大阪の中心にある私達の会社。さあ、少一し足を延ばしてみましよう。

① 足を延ばしたその先は、会社から1時間ほどの所にある大阪府と奈良県の境目、『金剛山』です。

写真は展望台付近で見つけた、野鳥の巣箱。設置したのは地元の観察会の方々とのことです。巣箱の住人はどんな鳥なのでしょう？きっと、おいしそうに秋の実りをついばんでいるのですね。

展望台からの景色は鮮やかな緑が目に入ります。『麓はどうなっているんだろうか？』・・・調査隊の鼓動は高まります。

② 緑の正体は『大阪府千早赤阪村』の田園風景。

緩やかな坂道を登るとスケッチブックを持った近くにお住まいの『おかあさん』に出会いました。

四季折々の表情を見せるこの棚田に思いを込めて描いてらっしゃるとの事。暖かく、優しい後ろ姿です。

③ 眼下に広がるのは日本の棚田百選にも選定されている『下赤坂の棚田』です。コスモスや“はさかけ”された稲穂が一枚の絵の様に広がります。気持ちのよい風が吹き、調査隊はいつまでも眺めていたい思いにふけりました。

いつもいる場所から、そう遠くない所にも“里山”はありました。

社長！『心の中に』とはそういうことですね！

里山に住む人々の生活や保全する人々の息遣いが感じられたような、そんな、今回のミッションでした。



審査員特別賞

「森林と人との関わり部門」

タイトル：「森の笑（わら）かし屋さん」氏名：河合 智佳子（愛知県豊田市）

おや？木に何かいたのでしょうか？皆のそきこんでいます。ありふれた何のヘンテツもない木だと思っても、実はユニークな「森の笑かし屋さん」がたくさんかくれています。

どの木にも模様、傷、こぶなどがありますが、まったく同じ木なんて一つもない。こんな風に視点を変えて木を“観”てみると、「ただの木」が「おもしろい木」へと大変身！撮影した場所はトヨタの森という、小学生の自然体験学習を主に行っているところです。

写真に写っている方々は「21世紀の里山文化体験コース」という大人向けのイベントの参加者で、テーマは「はじめよう、森が身近にある暮らし」でした。

そこで私たちが普段小学生にやっているように、参加者に森の笑かし屋さんを探してもらったところ、見つけた瞬間、思わずクスッと笑顔がこぼれました。私は、この瞬間の顔がすごく好きです。

この時私は、自分で笑かし屋さんを見つけたときの笑顔は子どもも大人も変わらないんだなと気づきました。これが木や森のチカラなのではないでしょうか。

森林浴をするとフィトンチッドによってストレスホルモンが減少…なんて難しいことを知らなくても、木ひとつ！自由な想像力ひとつ！だけで、誰もが笑顔になって癒やされる。そんな自然とのふれあいのほうが、より身近に親しみやすく感じませんか。

“笑かし屋さん”の住む木があなたのすぐ近くにあるかもしれませんよ。

さあ、探しに行ってみよう！



優 秀 賞

近畿中国森林管理局長賞 「森林と人との関わり部門」

タイトル：「青春時代の1ページ (O・Mo・I・De)」氏名：野島 丈裕（大阪府大阪市）



タイトル：「森とゆかいな仲間たち」氏名：前田 純二 大谷 純（大阪府大阪市）



タイトル：「守るべきいのち」氏名：服部 美沙（広島県庄原市）



タイトル：「春が来た！！」氏名：難波 広樹（広島県庄原市）



タイトル：「森林（もり）は大きな図書館」氏名：湯川 喜義（長野県木曽郡）



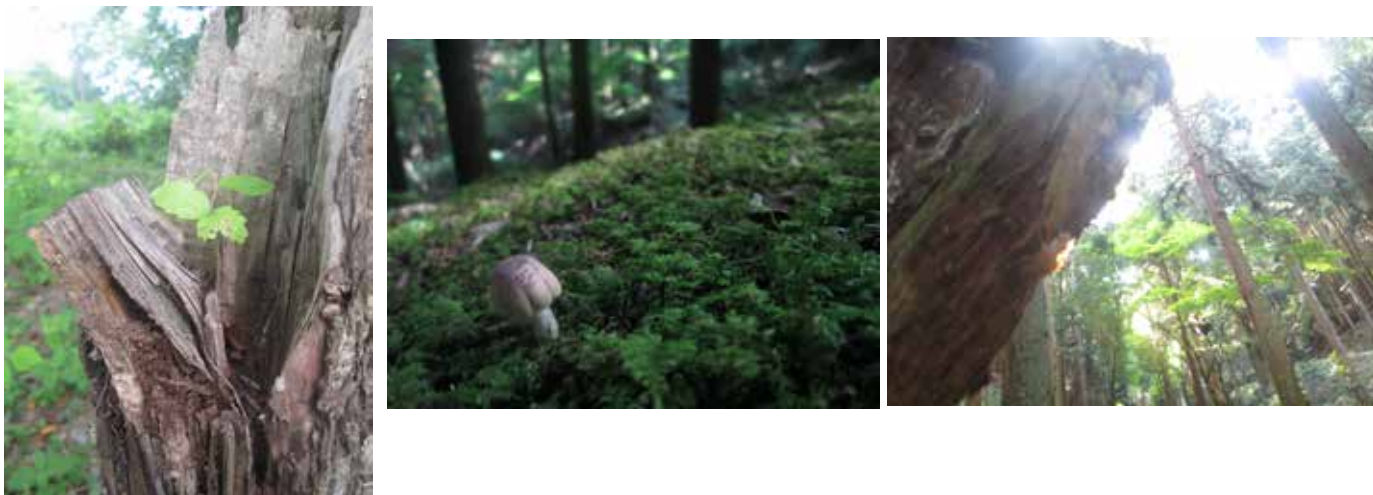
優 秀 賞

近畿中国森林管理局長賞「森林の動植物部門」

タイトル：「背中に目を付けている虫、他」氏名：藤井 寧々（大阪府豊能郡）



タイトル：「めぐる命」氏名：伊東 里沙（京都府京都市）



地域材利用拡大のための現地検討会 「木の家に住みたい！なぜ今、地域材？」を開催

【森林整備部 技術普及課】 12月14日（土）、大阪府河内長野市及び南河内郡千早赤坂村内において、地域材利用拡大のための現地検討会「木の家に住みたい！なぜ今、地域材？」を開催しました。

この催しは、公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受け、水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会が公募した19名が参加しました。

平成23年7月に公表された「森林・林業基本計画」では、木材自給率を平成32年には50%を見込むとされ、具体的には、住宅の木造・木質化、公共建築の原則木造化、内装の木質化などに取り組むとされています。このため、地域材を利用した住宅に関心のある方等を対象に、木材の伐採現場、木材市場、木材加工の施設見学のほか、実際に地域材を使い木材利用ポイント制度を利用した木造住宅の見学を行いました。

はじめに、大阪府森林組合奥野副組合長の案内で10



～90年生の複層林を訪れ、実際にスギを伐倒する様子を見学しました。

その後、「大阪府森林組合木材共販所」に移動

し、山から運ばれた丸太を販売する木材市場を見学しました。参加者は、はい積みされたスギ丸太や大きなイチョウ丸太を前に、樹種の特徴、使用用途、価格などをメモを取ったり、写真に収めたりと熱心に見学していました。

場所を移動して、地域の木（丸太）をメインに柱や梁など住宅建材を製材する「ウッドベースかわちながの」において、丸太を帯のこで板材に挽く様子や、大型の乾燥機で木材を乾燥させたり、[※]モルダー加工をする様子を見学しました。

最後に、地域材を使用した木造住宅を見学しました。南河内のスギやヒノキがふんだんに使用され、家にい



ながら森林浴をしている様でした。

参加者からは、「実際の伐倒を初めて見ました。」「木の太さが違うのに年数が同じでびっくりした。」「地元の木を使って家を建てて行きたい。（建築士）」「木に包まれた家はやはりいいですね。」「また、参加したい。」など沢山の声があり、盛況のうちに終了しました。

林業経営モデル林における路網等整備検討委員会（第2回）

【森林整備部 森林整備課】 12月5日（木）～6日（金）にかけて、岡山森林管理署管内の山ノ神谷国有林外で、林業経営モデル林における路網等整備検討委員会（第2回）が開催されました。



一日目は、委員会のメンバーやオブザーバーが実際に現場に出向き、事前に路線選定している箇所にて、

①林業専用道取付けポイント②現地に適した作業システムの検討③作業道アクセスポイント等の検討④木材需要の現況などについて、担当者から説明を行いました。委員からは、林業専用道の残土処理について、集積土場の面積の確保、路線の変更などについて質問がありました。

二日目は、岡山森林管理署会議室にて、長谷川委員長を中心に、各委員会メンバー並びにオブザーバーから「木材の流通に際し、民国協調した販売を行わないと、ただ施業ロットをまとめるだけではうまくいかない。何かアイデアを見出す必要がある。」また、「木材の安定的な供給を如何に行うかが鍵となるが、近隣の工場やバイオマス発電所の動向など、地域の情勢を注視しつつ、具体的なアイデアを出していくことが肝要。」との忌憚のない意見が多数寄せられるなど、有意義な委員会となりました。



これから、2月の取りまとめに向けて、局署等関係者一丸となって更なる取り組みの検討が必要と考えます。

わんぱく保育所でミニ森林教室開催

【和歌山森林管理署】 12月11日(水)、わんぱく保育所(田辺市新庄町)から依頼を受けて和歌山森林管理署職員3人がクリスマスに向けたリース作りなど、年長組(13人)の

子供たちを対象に出前森林教室を行いました。

はじめに、木材がふんだんに使われた暖かみ



のある教室の中で当署職員が山の話をして山には色々なきのこがあること、生き物が住んでいること、山には木が植えてあり、伐り倒された木材は保育園で使っている机や棚、園舎になるなど生活の役に立っていることを話しました。

また、保育所の近くが自然に恵まれていることもあり、山にどんな動物いる?と聞くと、「さる・しか・くま」と答えてくれ、子ども達が山にいる動物も含め自然に興味を持っていることがよくわかりました。

※
続いてクリスマス用のリース作りに便利なホットガンの使い方と注意点について簡単に説明した後、職員がサ

ポートしながらリース作りをしました。

子供たちは、リース作りの材料を選びながら「この木の実は何?」と質問しながら、

それぞれ絵を描いたり、木に色を塗ったりした後、マツボックリやドングリで綺麗に飾りつけをして、出来上がった作品をさっそく教室に飾りました。

和歌山森林管理署では、地域に親しまれる国有林を目指して今後も取り組んでいくとしています。

※ホットガン プラスチックを溶かし接着するピストル型の器具



森林の恵みでクリスマスリースとミニツリーづくり

【森林技術・支援センター】 12月7日(土)、高尾公民館(岡山県新見市)において、高尾学区子供会の児童及び保護者を対象(児童19名、保護者8名)に、森林教室を開催しました。春に当センターが高尾幼稚園で実施した森林教室が好評だったことから、この度、同子供会から要望があり実施したものです。

今回はクリスマスを控えているということもあって、国有林で採取したフジつるやドングリ、マツボックリ、ムラサキシキブ、サルトリイバラ、スギやヒノキの葉などを使って自然の素材が持つ温もりを感じてもらうことを目的に、クリスマスリースやミニツリーを工作することにしました。

まず、工作に先立ち、副所長が手作りのイラストを使って、当センターの業務内容や間伐の必要性などを説明しました。



次に企画係長から、今回工作の材料として使うマツボックリを題材に、マツの生態や子孫の増やし方、動物との関係を話しました。羽を使ってヒラヒラ飛び回る様子やリス等がマツボックリを食べた後の残骸(通称エビフライ)等、児童たちは普段あまり見るこ

ののないマツの様子に驚いていました。

そして、森林技術専門官が高学年にはクリスマスリース、低学年

にはミニツリーの作り方を説明しました。リースづくりは、つるを編むのに大きな輪になったり、小さな輪になったり悪戦苦闘しながらも、色とりどりの個性あふれるものができあがりました。また、保護者の中には、児童以上に熱心に取り組まれていた方もおられました。

今後も、当センターはこのような森林教室などの取り組みを通じ、地域の方々に森林・林業に対する理解の醸成やセンターの業務を積極的にPRしていきたいと考えています。



ナラ枯れ被害木、搬出薪割り大作戦

【京都大阪森林管理事務所】 12月3日(火)～5日(水)、7日(土)の4日間にわたり、高台寺山国有林において第4回薪割りイベントを開催しました。このイベントは東山におけるナラ枯れ被害が近年僅少になってきたとはいえ、まだまだ対策が必要な状況であることを広く一般市民の方々に知っていただくとともに、実際に森林作業を体験していただくことによって、みんなで東山に関心を持ち、ひいては京都三山についてみんなで考えようと実施したものです。

開催期間中は一般参加者を含め延べ約230名が参加しました。当所からは、延べ22名、さらにグリーンサポートスタッフの2名、京都オールドフォレスターズの会より2名が参加しました。

特に、7日には「薪割り大作戦&ウォーク2013」を京都大阪森林管理事務所、京都伝統文化の森推進協議会、朝日新聞社、京都市などの共催により開催しました。当日は、一般募集の参加者134名を10班に分け、まず、八坂神社参拝後、宮司より「八坂神社と森の係わり」の話を聞き、その後、京都森林インストラクターの解説案内で、薪割り会場の東山山頂公園を目指して自然観察をしながら森の中を歩いてナラ枯れ被害の現状に触れてもらいました。

到着後は、ヘルメットと軍手を身に着け、いよいよ薪割り開始です。作業内容は、自動および



手動薪割り機や斧での薪割り、小割り材の結束、集積場所への運搬で、今年は結束作業が大変早く、割られた薪が積み上がっているのを全く見かけず、薪の束がどんどん集積され1,600束の山が出来上がりました。力いっ

手動薪割り機や斧での薪割り、小割り材の結束、集積場所への運搬で、今年は結束作業が大変早く、割られた薪



ばい手動機のレバーを押す小学生、仲良くリズムを合わせてレバーを押すカップル、結束の形をきれいに

とパズル遊びを楽しむ女性三人組、補助者の指導のもと、豪快に斧で薪を割る男性や初めての斧体験の女性、嬉しそうにお母さんと一緒に一輪車で結束薪を運ぶ女の子、介護をしているので力はあるんですと軽がる薪を担ぐ女性、結束用の縄を結んでくれた女子大学生など、本日にいろんな方が参加してくれました。



この日は雨の心配がありましたが、参加者の気持ちを通じたのか、青空にも恵まれ、



お昼に差し入れされた豚汁やクロモジ茶で心も体も温まり、また子供たちは丸太切りに挑戦したり、輪切りした木片に絵を書いたりして楽しみました。

このような作業体験イベントを通じて市民、行政、マスコミ等が地域の関係者の協力のもと、一体となって開催することができ、広く市民に対して京都の森林の現状と森林の保全・管理の重要性について理解していただくことができました。

近畿中国森林管理局にフォレスター誕生

平成25年度からの認定制度により、「地域森林総合管理」試験に合格した者が森林総合管理士（フォレスター）に認定されます。

近畿中国森林管理局管内では、3名の職員がフォレスター試験に合格しました。

今後、府県のフォレスター等と連携して民有林の「市町村森林整備計画」策定等の支援に取り組むこととしています。

お知らせ

平成26年度 森林のギャラリー・ 展示ボックスの展示団体募集中

近畿中国森林管理局では、多くの国民が親しむ「開かれた国有林」を目指すため、局庁舎1階の展示ギャラリーへの展示参加団体を広く募集しております。

展示を希望される団体は、下記を参考に郵送にてご応募下さい。

● 展示の参加者

団体のみとし、個人での募集はしていません。

(国の機関、地方公共団体、森林ボランティア団体など。企業については、認められる場合もありますので詳細でご確認ください。)

● 展示の目的

国有林のPRや森林の保全・整備及び利用の促進などに資するもの等とし、営利を目的とするものは対象としない。(ただし、必要と認められ、かつ、少量・少額の販売については認められる場合があります。)

● 展示期間

ギャラリー：原則として2週間～1ヶ月

展示ボックス：原則として、1ヶ月

(新たな展示がない場合には、3ヶ月まで更新できます。)

● 展示料

は無料です。

● 展示ボックスの利用数

1団体あたり、4ボックスまでとします。

(他の団体による展示がない場合は、未利用のボックスを限度として利用することができます。)

● 申込期限 平成26年1月31日金曜日

● その他申込み方法・様式

詳しくは下記ホームページよりご確認ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【1月の展示スケジュール】

テーマ：レクリエーションの森

1/6～1/31 レクリエーションの森スキー場紹介
【近畿中国森林管理局 保全課】

1/6～2/10 「森林の調査隊!! フォトコンテスト」入選作品の展示
【箕面森林ふれあい推進センター】

12/16～1/31 木製品の展示《展示BOX》
【workshop WATER”上善水如”】

平成26年度 「国有林モニター」 応募 締め切り迫る!!

近畿中国森林管理局では、国有林を開かれた「国民の森林」とするよう取り組んでおり、その一環として、国有林の事業運営等について、国民の皆さまの理解を深めるとともに、ご意見やご要望をお聞きして国有林野行政に反映させるため「国有林モニター事業」を実施しているところです。

この度、平成26年度「国有林モニター」を募集しますので、多くの皆様からのご応募をお待ちしております。

● 募集人員 80名程度

● 依頼期間 平成26年4月から平成27年3月まで(1年間)

● 依頼内容

(1) 国有林に関するアンケート

(2) 国有林野の管理経営についてのご意見・ご要望

(3) モニター会議へのご出席(希望者から若干名を選定)等

● 応募資格 近畿中国森林管理局管内にお住いの森林・林業及び国有林に関心のある満16歳以上の方。

ただし、原則として次の方を除きます。

(1) 国会及び地方議会の議員

(2) 地方公共団体の長

(3) 常勤の国家公務員

(4) 平成23～25年度の3年間連続して国有林モニターとなられた方

● 応募方法

詳しくは <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/2014monitorboshuu.html> をご確認ください。

● 募集締め切り

平成26年1月24日金曜日

(当日必着です。ご注意ください。)

「森とのふれあいスタンプラリー」開催中!!

奈良森林管理事務所では、レクリエーションの森に指定した国有林を巡るスタンプラリーを実施しています。

本スタンプラリーは、国民の皆様が森林に親しみを感じ、災害の防止や生物多様性の保全、レクリエーション機能など森林の役割を知っていただくとともに、奈良県内のふるさと産品の紹介や地域の交通機関を利用していただくことにより県内の地域振興等を図ることを目的としています。

スタンプを集め応募すると、ふるさと産品の抽選に参加できますので、ぜひとも皆様のご参加をお待ちしております。

開催期間：～平成26年2月14日まで

設置場所：奈良県内6箇所のレクリエーションの森及びその周辺

詳しくは、奈良森林管理事務所ホームページ内

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/nara/information/h240928sutanpurari.html>

シリーズ 保護林 第8回

近畿中国森林管理局の保護林

おおすぎたに

大杉谷森林生態系保護地域 [南伊勢森林計画区]



ブナ林



トウヒ林

大杉谷森林生態系保護地域は、三重県大台町に位置する大杉谷国有林内にあります。原生的な天然林を保護することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的として保護しています。

この保護林の面積は、1390.75haで、吉野熊野国立公園、水源かん養保安林、鳥獣保護区、カモシカ保護地域などにも指定されています。奈良県との県境には日出ヶ岳(1694.9m)があり、登山道が整備され休日には多くの登山者が訪れます。

【大杉谷森林生態系保護地域に生息・生育する動植物】

◎ 植物：トウヒ、ウラジロモミ、ツガ、ブナ、ミズナラ、ヒメシャラ、オオイタヤメイヅグ、リョウブ、シロヤシオ、ホンシャクナゲ、ミヤコザサ、ミヤマシキミなど

◎ 動物：ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンジカ、ヒガラ、ウグイス、ミゾサザイ、オオダイガハラサンショウウオ、ナガレヒキガエル、マムシ、ヤマカガシなど

【大杉谷森林生態系保護地域へのアクセス】

◎大台ヶ原駐車場から・・・駐車場より登山道を利用し、日出ヶ岳からアプローチ。

◎大杉峡谷から・・・・・・登山口より登山道を利用し、桃ノ木小屋、大台林道を経て日出ヶ岳へアプローチ。

大杉谷森林生態系保護地域

桃ノ木小屋

大杉峡谷

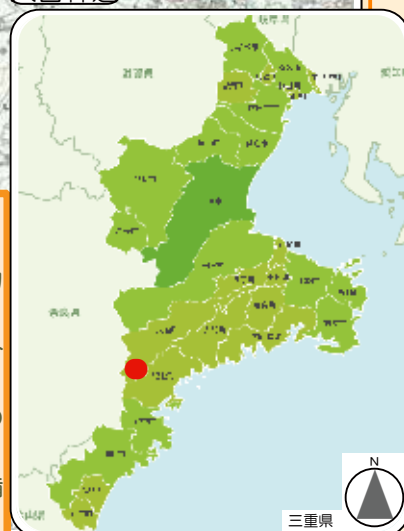
大台林道

日出ヶ岳

駐車場

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。
- ★ツキノワグマ生息域です！熊鈴をつけるなど、装備は万全にしてください。



三重県